

15年ぶりの大雪に見舞われ、とても寒い冬でしたが、ようやく春のきざしが見えてきた今日この頃です。会員みなさん、お子さま達お元気でしょうか。

私達の会でも雪のために延期になっていた「成年後見制度」についての学習会の開催をはじめ様々な活動を進めていきたいと思っています。ぜひ多くの方のご協力をお願いいたします。

石川県庁・金沢市役所を訪問

去る3月19日益子会長、越坂事務局長、松田理事は本部職員の方といっしょに県庁と金沢市役所を訪問してきました。

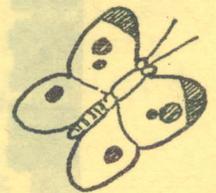
県庁では障害保健福祉課の林課長、植野課参事、橋本知的障害福祉係長とお話することができました。・重症心身障害児の卒業後の行き場所の確保について・重症心身障害児者通園事業B型の充実について・レスパイト事業「ハートポッポ」への援助等についての3点について要望しました。県議会の真っ最中にも関わらず時間をとって話を聞いていただきました。しかしまだ重症児者の実態を十分把握されていないようなので今後とも働きかけていくことが大切だと思われます。

金沢市では障害福祉課の津路課長補佐にお会いし重症児者のおおわれている現状をお話してきました。

「成年後見制度」学習会について

1月に予定していた学習会が大雪のため延期になっていましたが、下記の通り開催いたしますので関心のある方の参加をお待ちしています。

日・時 平成13年4月15日(日) 13時~15時
場 所 医王病院 3階 会議室
話題提供 山本衛氏 (金沢地方法務局)



「ふれあいの家」(仮)建設について

第4回の総会で決定された「ふれあいの家」(仮)建設推進について準備会として医王病院の敷地内をお借りできないかと申請していましたが、国有地を借りることは困難との回答でした。その後、役員会でも病院の近くで土地か家を借りることも含めて検討しています。病院の外ということになると当初の利用目的とは少し違ってくることにもなり、会員みなさんのご意見を再度お聞きしてから、進めていきたいと考えています。



第4回巡回療育相談を終えて

平成12年10月17~18日に七尾市と輪島市で巡回療育相談が実施されました。

17日は能登中部保健福祉センターを会場に七尾病院の松島院長、福祉センターの保健婦、児童相談所の職員、守る会の本部職員、石川支部の役員をスタッフに行なわれました。相談を受けられたのは今回で2度目のSちゃん、2才のHちゃん、4才のEちゃん、22才のTさんでした。体格のよいTさんは170cmを超える身長で毎日一人で介護することは、小柄なお母さんにとっては大変なことです。お母さんの負担を少しでも援助する福祉の充実が望まれます。

午後から家庭訪問したYさんは訪問教育の高等部2年生です。お母さんは卒業後のことを心配されており、「訪問教育にも大学まであればいいのにね」という言葉には笑いでは済まされない親の願いをひしひしと感じました。

18日は能登北部保健センターを会場に医王病院の石川院長、福祉センターの保健婦、児童相談所の職員、そして前日同様の守る会関係者がスタッフとなり実施されました。相談者は16才のFさん、20才のKさんでした。Fさんは93才の曾祖母を含む大家族の中で楽しく暮らしていましたが、家庭の事情で春から施設に入所することになっています。Fさんもそのことを感じるのかお母さんにとても甘えていました。20才のKさんは月1回金沢の病院へ通院しているが、訪問教育が義務教育で終わってしまい淋しい思いをしていると訴えられました。なぜ高等部の訪問教育が受けられなかったのか、石川では10年前から実施していたのにとても残念でなりませんでした。同じ県内でも情報が行き届かなく、こんなに格差があることを思い知らされました。午後の訪問相談のMさんは3回目の相談ですが、現在はショートステイや訪問教育を受けられ、子どもさんの表情も豊かになり、お母さんも明るくなっておられてスタッフ一同継続することの大切さを痛感しました。

平成9年度から始まった巡回療育相談で29名の相談を受けました。保護者のみなさんからの悩みや要望をもとに重症心身障害児(者)の日々の生活が少しでも快適になるようにとの思いで続けてきました。ご家族の方々が安心して、心身共にリフレッシュしながら子ども達の療育ができるよう、県内各機関との連携を密にして今後とも新たな相談活動を考えていきたいと思っています。

これまでご協力頂いた方々、行政機関の担当者の方々には大変お世話になりありがとうございました。今後ともご指導、ご鞭撻お願い申し上げます。

新年度会費納入のお願い

—— 正会員・賛助会員のみなさまへ ——

日頃より本会の事業に深いご理解とご支援をたまわり有難うございます。

おかげさまでこの会も着実に歩み始めており、子ども達の幸せのために役員一同頑張らせていただいております。今年度も全国守る会の補助事業やレスパイト事業「ハートぽっば」に取り組んでいきたいと思っています。今後ともご協力の程よろしくお願い致します。

尚、今年度の会費は同封の振込み用紙にて納入して下さいますようお願い申し上げます。(正会員は年額8000円、賛助会員は1000円(1口)以上です。)

平成13年度補助事業申請について

平成12年度には本部より補助を頂いて、巡回療育相談と介護交流セミナーを実施しました。介護交流セミナーについては多数のみなさんにご参加いただき、楽しい一日を過ごすことができました。この事業につきましては本部より多額の補助をしていただき、各方面から講師を招いたり、多くのボランティアさんを要請したり、業者さんに来ていただいたりと有意義に使わせていただきました。

平成13年度につきましては重症児（者）のための緊張緩和方法の学習事業として本部で提起されている「感覚的体験プログラム」を石川支部として申請することとしました。この事業は重症児（者）が日常的にリラクゼーションできるよう専門家から実技指導を受け、介護者の負担軽減をめざすものです。

本部での調整が付き、実施できるようになればお知らせしますので多数ご参加くださるようお願いいたします。

第5回総会について

平成12年度の総会を昨年6月25日に開催してから、もう1年近くがたとうとしています。そこで今年度の総会を7月8日（日）13：30～15：30に開くことにしました。くわしいことは次号でお知らせしますが日程を調整してぜひご参加くださるよう今からお願いいたします。

会員の現況

新入会員	正会員	入所	44名
賛助会員 滝沢 昇さん		在宅	19名
	賛助会員		30名
合 計			93名

東海北陸医務局訪問報告

平成12年9月7日2回目の訪問を行いましたので下記のとおり報告します。

出席者 医務局 桜井局長 黒川次長 福田医療課長 水野総務課長 他1名
ブロック 田中ブロック長 山田国療部会長 松尾三重県支部長

Q、重心病棟設置施設に重症児通園事業の実施について。

A、本省の病院部がモデル的に実施する様検討している。管内でも1～2候補にある。現在行われている通園事業が重症児に不利で有るとの指摘がることは承知している。厚生省も指導はしているが申し訳ない。中央と地方のかみ合わせが大切である。

Q、医療事故の再発防止について。

A、医療事故が多発している事については大変申し訳なく責任を痛感している。管内には27名の人口呼吸器使用者がいる、それらを考え11年7月に、国立療養所病院等の一斉点検を実施して再発防止に努めている。今後も、十分注意していく。

Q、独立行政法人について。

A、16年度中には法人化される見通しである。これは、個別法が成立する予定である為に見通しという言葉を使用する。

Q、統廃合について。

A、16年度には完了の見込みであるが、重心病棟を優先に建設、移転されるが不確定な部分が多い。全ての施設の建設、移転の見通しは現在は不明な部分が多い。これは財政の問題である。

Q、看護婦不足が医療事故につながるのでは。

A、総定員法の前では今が精一杯であるが、それらを理由にはいけない。独立行政法人化されれば今より緩和されると思う。

Q、専門職員の高齢化、不足に対応を。

A、保母さんは移動が殆どない。今後は家庭の事情を考慮して転勤などを考えながら、同時に定年なる事のないように対処していく。専門職の不足は療育に影響するので努力していく。

他、重症児施設の通園事業の問題は、施設面、職員の面で課題が多い。

養護学校と施設は連携をとり、ショートステイ利用の場合などしっかりと対応していきたい。以上

教育新世紀

一人ずつ、壮太君と握手して自己紹介する生徒たち

Try it! 心の授業

3

1/22 読売



「壮太君が生まれた時、お母さんはどう思ったか。」

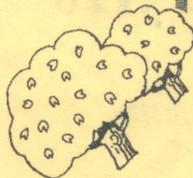
「障害持つ我が子への思い語る」

石川奥根上町立根上中学校 一年生のクラスで昨年十月、行われた道徳の授業。担任教師が問題を投げかける内に住む重度の身体障害者、山岸壮太君(13)の母、郁代さんが教室に招かれていた。

教壇に立つつ母

年。仮死状態で生まれ、今でも言葉を話せない。「最後に郁代さん

「壮太君が生まれた時、お母さんはどう思ったか。」がライオニスセンターで、最初は物に触ることに介助をしていたヘルパーたちが、次第に壮太君の感情を理解し始めたことがうれしかった。「助けを借りて、この町で一緒に生きていけるかもしれない。そう思えるようになった。」



(高田 浩)